

# 長崎 検定

## 一級 さん

Vol.34

### 生涯学習見つけたり

### 吉田 利子 さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。  
その卓越した識見には、なにやら一家言ありそうです。  
ざっくばらんに寄稿願いました。

我が家のルーツを調べると母方が、長崎市内の出身でした。「先祖の生きた時代を知りたい」が、長崎市の歴史に触れる切っ掛けでした。

平成18年3月5日・第1回長崎検定に3級を申込みましたが、伯父の告別式と重なり受験断念。その後は長崎検定テキスト本、長崎さるく本、長崎新聞に記載された問題（第4回まで）で自主学習していました。

「自分の知識がどんなものか知りたい」。第5回・3級、第6回・2級と挑戦し合格。第7回・1級に挑戦したものの完敗。第8・9回はもう一歩のところまで不合格。すごく悔しい思いをしました。第10回、今度こそと思った矢先、足の骨折で受験断念。第11回・1級5度目の挑戦でした。

商工会議所に向き2級・1級の解答付問題を手に入れ自己採点をしたところ結果は、不合格が濃厚とできました。

平成28年3月29日、親友の告別式から帰宅すると「合格」を知らせる封書が届いていました。さ

すがに悲しみの中、素直に喜べませんでした。

5月23日の1級合格証贈呈式は、私の退院当日の出来事でした。挑戦を始めて10年目、「合格証」を胸に抱いた時、やっと喜びが心の底から湧き上がってきました。

私は2級・1級の過去問を徹底的にやりました。単語帳の表に問題、裏に答えを書き、仕事や家事の合間、病院受診の待ち時間さえ勉強していました。

例えば、長崎三大火災の大火名を書く問題。答えは寛文の大火、元禄の大火、天保の大火が良いのですが、いつしか単語帳の答えの余白には何年に起きてどんな影響があったまで書いてありました。

「余白が埋まる＝知識が増える」ですから楽しみでした。これも1級に5回も挑戦した結果でしょう。自分流の勉強方法を見つけるまでは大変でした。

今は合格目的を卒業し、大浦慶の生涯と自分の

人生を重ね、歴史で肉付けしてみたりと、楽しむ遊びながら好きな分野を勉強中です。

観光客にゲーム感覚で歴史上の人物と自分の人生を対比させ、もちろん時代背景も印刷された書面を見せるなんてどうでしょうか？文化交流としては、熊本の牛深、田平、樺島と「ハイヤ節」で年に1度、長崎の街で共演なんてどうですか？「潜伏キリシタン」だけの関係ではもったいないと思います。

いつか多くの人達と歴史談話をする夢のために、歴史探究は私の生涯学習となりました。



#### 【プロフィール】

1951年雲仙市生まれ。  
35歳で清掃業を起業。只今、両親の介護中。将来「おばあちゃん」ガイドになりたいです。